

# 国際経済科 特色ある学科づくり

岐阜県立中津商業高等学校教諭 今井 隆弘

## 1. はじめに

本校は、大正11年創立の歴史ある商業専門高校である。学科は、経営科・ビジネス会計科・情報ビジネス科・情報処理科・国際経済科の5学科を設置している。

国際経済科は、国際化社会に対応する人材育成並びに海外進出する企業が増加する地元ニーズに対応するため、平成3年に設置された。また、国際経済科の目標は、外国語によるコミュニケーション能力を高め、インターネット等を活用して国際理解教育を進めるとともに、国際感覚、国際交流能力を身に付けた国際経済社会において活躍できる人材の育成を目指す。

こうした学科目標の達成を目指して、生徒の個性の伸長を図って取り組んだ教育実践活動を紹介する。

## 2. 特色ある授業展開

### (1) 科目「コンピュータ・LL演習」

「コンピュータ・LL演習」では、コンピュータ及びLLや英会話ソフトウェア等を利用し、英語によるコミュニケーション能力を育成するため、英語科と商業科が協働してチームティーチングの授業を行っている。

授業ではパソコン等を利用した学習活動を通じて、理解力や表現力を高めながら英語の総合的な運用能力の向上を図っている。英語で書かれた文章や相手の考えなどを英語で理解し、英語で表現する能力を高めることで、英語による実践的コミュニケーション能力を身に付ける。具体的には、「Lキューブシステム」(英語学習システム)と「らくらく英会話」「日常英会話」等の英語ソフトを利用して、英語の「書く」「聞く」「読む」「話す」のそれぞれの能力を偏



ブース実習室

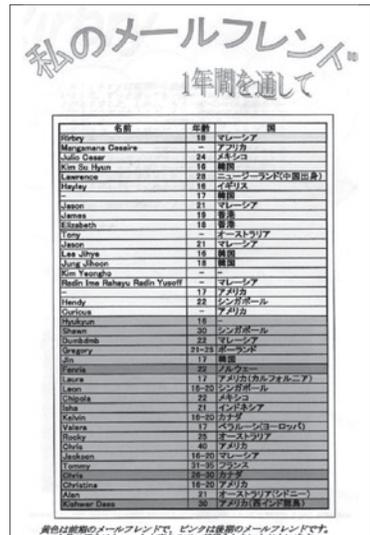
りなく伸ばすことを目指してきた。

### (2) 科目「情報処理」

「情報処理」では、情報処理、ネットワーク及び情報モラルとセキュリティの単元において、国際経済科の特色を生かした学習活動を次のように行っている。

No	手順	使用ソフト等
1	情報収集テーマ作成	表計算ソフト
2	メールリスト掲載用の文書作成 日本語版作成後、英語版作成	ワープロソフト
3	海外メールフレンド募集サイト登録	ホームページ
4	英語メールによる交流と情報収集	メール
5	画像・音声の交流	メール
6	情報収集の記録	表計算ソフト
7	情報収集の整理	表計算ソフト
8	情報処理と分析	ワープロソフト
9	情報処理した内容レポート 作成・提出	各種ソフト

### 授業展開



生徒レポート例



(岐阜新聞より)

だけでなく、自分から積極的に取り組むことができた。楽しみながら学習することができた。はじめて海外からメールが来た時には、うれしくて感動した。国際経済科の特色がでている授業だと思う」などである。

### (3) 科目「課題研究」

商業に関する課題を設定し、その課題解決を図る学習を通して、専門的な知識や技術を深め、総合化を図るとともに、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てるため、新たに「国際化に対応したベンチャービジネス」を授業に取り入れている。授業では、岐阜県商業教育研究会流通ビジネス専門委

課題研究 年間計画	
月日	項目
4月	オリエンテーション ベンチャービジネス・テキスト説明
5月	テーマ設定
	日本語版 ビジネスプラン作成・基本編
	日本語版 ビジネスプラン作成・応用編 日本語版 ポップ広告
6月	前期中間考査 レポート提出 Eコマース・使用方法説明
	日本語版 Eコマース作成
9月	前期期末考査 レポート提出
10月	英語版 ビジネスプラン作成
11月	英語版 Eコマース作成
12月	日本語版・英語版 ポップ広告作成 レポートまとめ
	後期中間考査 レポート提出なし
1月	発表会
2月	学年末考査 レポート提出

員会制作のテキスト「ベンチャービジネス」を教材として利用している。

ベンチャービジネスの導入では、動機付けを図るために、外部講師を活用している。生徒は、

日本語版ビジネスプランとポップ広告を作成し、その後英語版ビジネスプランを作成する。また、生徒は、各自のビジネスプランに基づいて、Eコマース支援ソフトを利用して日本語版Eコマースサイトを作成し、その後、英語版Eコマースサイトを作成する。

この実習を通して、生徒は各自の独創性を出そうと積極的な姿勢で取り組んでいる。なお、Eコマースサイトの会社名は、総合実践で展開する取引実践の会社名とリンクするよう設定している。

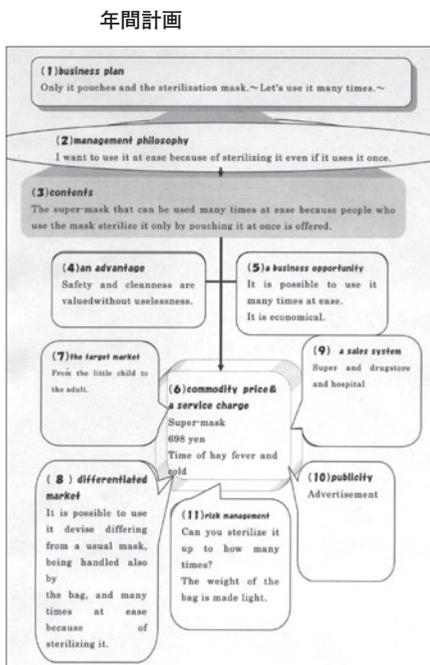
授業の評価にあたっては、評価規準を、事前に生徒に示している。評価規準に基づいて点数化を図り、また評価した結果を個別に公表している。

生徒の感想は、「日常生活を送りながらアイデアを見つけられるようになった。考えたアイデアを表現する力が身についた」「将来、ベンチャーを立ち上げる時、役に立つ授業だと感じた」等、前向きな評価が多くある。

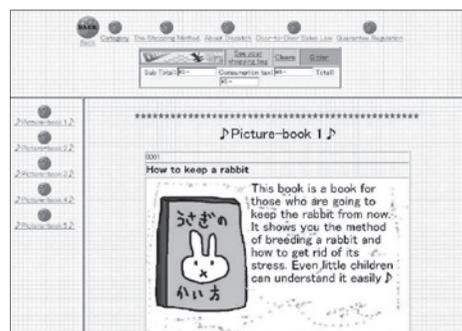
生徒は、ベンチャービジネスの意義を理解し、ビジネスプラン、Eコマース、ポップ広告を日本語や英語で作成する能力を身に付けられるとともに、自分の発想を形にする力を身に付けたと考える。

No	課題研究・評価規準
1	提出日の状況
2	レポート枚数
3	授業外時間数の量
4	日誌の記入状況
5	参考資料の利用状況
6	ビジョンと設定理由
7	入力技術のレベル
8	アイデア性
9	実現性
10	英語版入力状況のレベル
11	反省と課題状況
12	発表会状況

### 評価規準



生徒作成英語版ビジネスプラン例



生徒作成サイト例

### (4) 科目「総合実践」

商業の国際経済に関する知識や技術を実践的活動を通して総合的に習得させ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う能力と態度を育てるため、ビジネス英会話、英文帳票を取り入れた英語版自由取引実践を行っている。

年間を通して、次の手順で指導している。①マナー指導、②文書作成、③日本語による同時同業実践、④英語による同時同業実践、⑤自由取引実践である。

取引は、できるだけ簡素化し、ビジネス英会話による引き合いと英文帳票作成の指導にポイントを置いている。特に、一人一社制の英語版自由取引実践では、生徒が仕入時や販売時の商品単価や数量を決定する。また、在庫管理と資金繰りに留意しながら、利益追求型の取引実践を行っている。生徒は、各自の会社に損失を発生させないよう工夫しながら取り組む。また、取引ではすべて英文帳票処理される。生徒は、英語版自由取引実践が進むにつれて興味・関心を持ち、積極的に実習している。

Debit		Credit	
Description	Amount	Description	Amount
Checking Accounts	240,000	Accounts Payable	50,000
Accounts Receivable	50,000	Notes on Debt	50,000
Allowance for Bad Debt	2,000	Capital Stock	400,000
Merchandise Inventories	212,500	Net Income	0
Equipment	250,000		
Accumulated Depreciation	24,500		
	579,000		579,000

生徒作成英文帳簿例

### 3. その他の教育活動

#### (1) 海外研修

海外研修は、「英語による実践的なコミュニケーション能力の育成と異文化理解」を目的としている。訪問先はニュージーランド・オークランドで、国際経済科2年生全員が7泊8日で研修を行う。

研修内容は、ホームステイ、見学研修、班別研修、ファーム見学、ヨットクルーズ等である。特に、学校訪問時に行うフリーマーケットは特徴的である。生徒は事前に、家庭からバザー用の品物を持参して、訪問先の現地で生徒や教員に安い価格で販売する。生徒は、英語を使って商品を販売する体験ができる。当初学校訪問は生徒交流・学校見学等で不評であった。そのため、フリーマーケットの企画を取り入れた。



海外研修（ヨットクルーズの様子）

これは、学校訪問先生徒と本校生徒が日本から持参したフリーマーケット商品の陳列準備及び販売を行う。

学校訪問先生徒及び教員が、集まり大盛況であった。収益は、全部訪問先へ寄付し、今後の日本語学習の必要費用に当てられている。

海外研修事後において、現地高校生とEメール交換を行い、さらに交流を深めている。

海外研修は、国際経済科の中心的学校行事である。生徒は、海外研修に興味・関心がとても高く、「英語による実践的なコミュニケーション能力の育成と異文化理解」の目的をほぼ達成していると考えている。

事前から事後にわたる現地協力学校とのEメールによる交流や、現地でのフリーマーケットや班別研修などを通して、海外研修の期間を「より長く」という要望も多く、今後の課題となっている。

#### (2) ストレート・エクスチェンジ（交換留学制度）

ストレート・エクスチェンジとは、ニュージーランド、エッジワウォーター高校との直接交換留学制度である。両校双方で希望生徒がいる場合、1年間の直接交換留学を行うもので、生徒相互の家庭をホームステイ先としている。毎年、国際経済科には留学を希望する生徒が数名ずついる。互いの留学にあたって両校は、相互に必要な時に必要な支援が受けられるような体制が整備されている。そのことが結果的に、姉妹校以上の相互関係が維持されることにつながっている。平成15年度の本校からの交換留学生は2名、受け入れの留学生は平成15、16年度に各1名ずつである。平成17年度は、各1名が交換留学を行っている。

国際経済科には、この他にもJFIE（日本国際交流振興会）やAISE（American Intercultural Student Exchange）等の団体が主催する留学制度を利用する生徒もいる。

本校では、国際理解教育を推進するため国際教育室を設置し、短期・長期の留学希望者に資料提供とカウンセリングを行っている。

1年間留学を経験した生徒は、日常英会話が流ちょうになり、自己表現能力が伸びている。また、受け入れた留学生は、日本語能力を伸ばすだけでなく、



留学生の活動風景

在校生とのコミュニケーションを通して、互いに良い刺激を与えている。1年間の長期海外留学を通し、英語

によるコミュニケーション能力と異文化理解を深めることができていると考える。

### (3) 中国語講座

第二外国語として、経済成長の著しい中国の経済事情や異文化を理解するため、中国語講座を行っている。

国際経済科3年生を対象として、地元外部講師の先生により2時間の講座を行う。

生徒は、発音に戸惑いながらも、興味・関心を抱き、積極的に受講している。

生徒は、中国語の発音や基本文型、中国の様子等の基礎を理解することができた様子であった。



(中日新聞より)

## 4. 国際理解教育の推進

国際経済科の生徒は、入学時に将来設計と高校生活に取り組む姿勢を作文にし、担任へ提出している。生徒が、高校生活を行う上でのモチベーションを大切に学習活動できるように配慮している。

1年次には、学科目標や3年間の学習活動及び目



国際経済科取り組み紹介資料

標を各学科主任が説明を行い、学習意欲を高められるよう配慮している。また、学級担任及び副担任の連絡会議を持ち、縦のつながりを大切にしている。

また、中学生に対して実施している一日体験入学では、学科の説明を行うとともに学科の取り組みを一目で分かる資料を作成して国際理解教育の一助としている。

また、地元小中学校における国際理解教育をより一層推進しようとする地元教育委員会の依頼により、「小中学校教員向け国際交流講座」を開催した。その中で、中学校教員に、世界中のメール交流相手を紹介した。



(岐阜新聞より)

## 5. まとめ

特色ある学科運営を進めるにあたって、指導者の育成は不可欠である。本校国際経済科のプログラムの指導体制を確立するために、マニュアル化を進めている。また、これまで様々な教育実践活動に取り組んできたが、現状に満足することなく、これからも研究し、さらに発展させる心構えで取り組んでいる。

今後、より一層生徒の興味・関心を引き出させる学習内容、指導方法の工夫改善と時代の変化に対応する資質と能力を培うための実践活動の在り方を研究していかなければならない。

〈問い合わせ先〉 今井隆弘 imai508@ybb.ne.jp